

第 5 回 経済トップセミナー

第 5 回 経済トップセミナーが 5 月 26 日午後 1 時よりホルトホール大分の大ホールで開催されました。講師は九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長執行役員の青柳俊彦氏。当初、2 月 17 日に予定されていたのが、新型コロナウイルス感染予防のため 3 か月延期されてこの日になったものです。会場には 370 名の市民、四極会会員、経済学部学生が集まって熱心に講師の話に耳を傾けました。

テーマは「九州を元気に！ ～ J R 九州のこれまでとこれから～」。

J R 九州の歴史と現在の多彩な挑戦を中心に話されました。

今から 135 年前の 1887 年に発足した九州鉄道が 1907 年に国有化されて国鉄になり、その国鉄は、第二次世界大戦後は職員数 61 万人を数える鉄道会社となりました。巨大さゆえに抱え込んだ多くの課題を解決するため分割民営化された 1987 年に発足したのが現在の J R 九州です。



年間 300 億円の赤字会社としてスタートして取り組んだのが収入の増加と経費の削減。安全性を徹底的に追求しつつ、デザインを最大の経営戦略として様々な事業を展開してきました。

現在掲げているのが“デザイン&ストーリー 列車の旅”。大分県にもなじみの「ゆふいんの森」「あそぼーい！」の他、「SL人吉」「いさぶろう・じんぺい」など多くのデザイン列車を走らせています。2022年秋には西九州を舞台に「ふたつ星 4047」も加わります。

鉄道事業を超えた経営の多角化にも力を入れており、小倉を皮切りに主要駅に整備したアミュプラザは、長崎、鹿児島、博多、大分、宮崎、熊本と九州全域に広がっています。MJR（マンション）、ホテル、リゾートにも進出しています。その結果、発足時に1,500億円だった売上高が、株式を上場した前年の2015年度には3,779億円へと倍増しました。売上高に占める鉄道事業の割合は39%まで縮小しました。JR各社の中で最小だとのこと。

地域を元気に！九州の持続的な発展に貢献する！を目標に発展するJR九州は、九州の中心的な企業として、私たちの暮らしを支える大切な事業力強く実施していることが、青柳会長のお話でよくわかりました。



大分大学経済学部創立100周年記念事業として計画した経済トップセミナーは今回ですべて終了しました。各界で活躍される大分にゆかりの著名な方々にお話しいただきました。お忙しい中を大分での講演をお引き受けくださり、聴衆に感銘を与えられた皆様に厚く御礼申し上げます。また、新型コロナウイルスの感染が

おさまらない中、毎回多数聴講されました四極会会員、市民、学生の皆様、ご協力ありがとうございました。

いつも開会あいさつをされた高見博之経済学部長、壇上に上がられた野々下俊昭 100 周年事業実行委員長と三浦洋一四極会会長代行、的確なまとめをして司会を務められた渡邊博子経済学部教授、受付を担当された学生さんたち、皆さまのご協力で、歴史に残る経済トップセミナーになりました。